

【樹木・草花の部屋】

ユキヤナギ（バラ科/シモツケ亜科/シモツケ属 *Spiraea thunbergii* ）

和名；ユキヤナギ **別名**；コゴメバナ、コゴメヤナギ **英名**；Thunberg's meadowsweet
バラ目 落葉低木

原産地；日本 **花言葉**；愛嬌、愛らしさ、懸命、静かな思い

花の色；白



← 写真－1 ユキヤナギの樹形

撮影日：2013年4月1日

撮影場所：大和郡山市大和郡山城にて

撮影者：Mさん

大和郡山城内、ソメイヨシノの下に咲いていました。中国自動車道吹田ICから入ってすぐの万博記念公園法面には、毎年、見事な景観を見せてくれます。

写真－2 ユキヤナギの花

⇒

撮影日：2013年4月1日

撮影場所：大和郡山市

大和郡山城にて

撮影者：Mさん



公園や庭先でよく見かける花。放任しても成長し、大きくなると1.5mほどの高さに…。地面の際から枝がいく本にも枝垂れて、細く、ぎざぎざのあ

る葉をつけ、花は、3月から5月にかけて、5弁で雪白の小さなものを枝全体につける。その様子から和名がついたのは頷けます。

自生種は石川県で絶滅危惧Ⅰ類に指定されているなど、地域的には絶滅が危惧されているそうです。

枝の伸びの勢いが強い植物なので、放任すると枝がたくさんでて、ごちゃごちゃした感じの株に……。

【樹木・草花の部屋】

<ちょっと一言 >

手入れ法

- ① こみ合った部分を間引いて風通しをよくすること。枝が密に混み合うと風通しが悪くなり、株が蒸れたり、株の内部まで充分日が当たらなくなり、枯れ枝や弱い細い枝が増えることになる。
- ② 株は花付きが悪くなる上に、枯れた枝も目立つようになり見苦しくなる。古株は思いきって出来るだけ地上近くまで切り戻し、新しい枝を出させる。早い時期に剪定を行う程に長い新枝が育ち、地面から生えた枝が曲線を描いて伸びる横姿が美しくなります。枝を途中で切るのはあまり推奨できません。
- ③ 定時期は花の直後。9～10月には翌春の花芽が枝の中でつくられるので、それ以降の切り戻しは避けること。新梢が伸びてから剪定すると、花芽の分化期に負担を掛けて充実した新梢が出来ない原因となったり、花芽を切り取ることになったりするので要注意。新枝が出ない枝先は、いずれ枯れて残る為、剪定の時に切り取る。この時、しなだれた時に上芽を残して切ると良い。

ふやし方

挿し木：落葉期に、前の年に伸びた枝を長さ10cmほど切り取り、1時間ほど水揚げをしてから赤玉土の小粒やさし木用土にさす。たっぷりと水やりして、日陰の風が当たらない場所に置いて、乾かさないように管理すれば、4～5月に新芽が出て、発根する。

株分け：植えつけ適期(2月中旬～3月、または10～11月)に株を掘り上げ、鋏などで、枝を4～5本ずつつけて根を切り分ける。多少傷んでも根は付くので作業は容易。

圧条法：枝を曲げて地面に着け、土を被せておくと地面に着いた所から発根。発根後、切り離して植え直す。

品種情報

最近、ピンク系などの品種もあるようです。

・フジノピンク

花卉の外側がピンク、内側が白色。蕾のときに最も濃く、開花すると白とピンクが混じり、全体に薄いピンクに見えるそうです。

・オウゴン

新葉が黄色く、だんだんと緑色に変化。生育はユキヤナギに比べて遅い品種だそうです。増殖は挿し木、株分け、圧条法、根伏せ、実生で殖やせます。